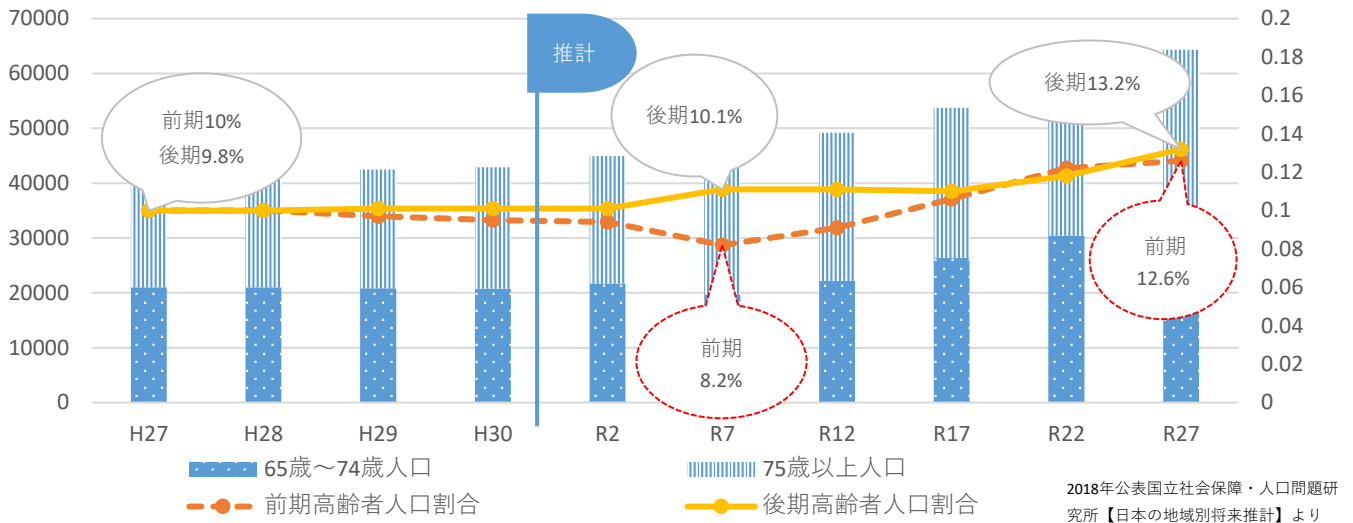
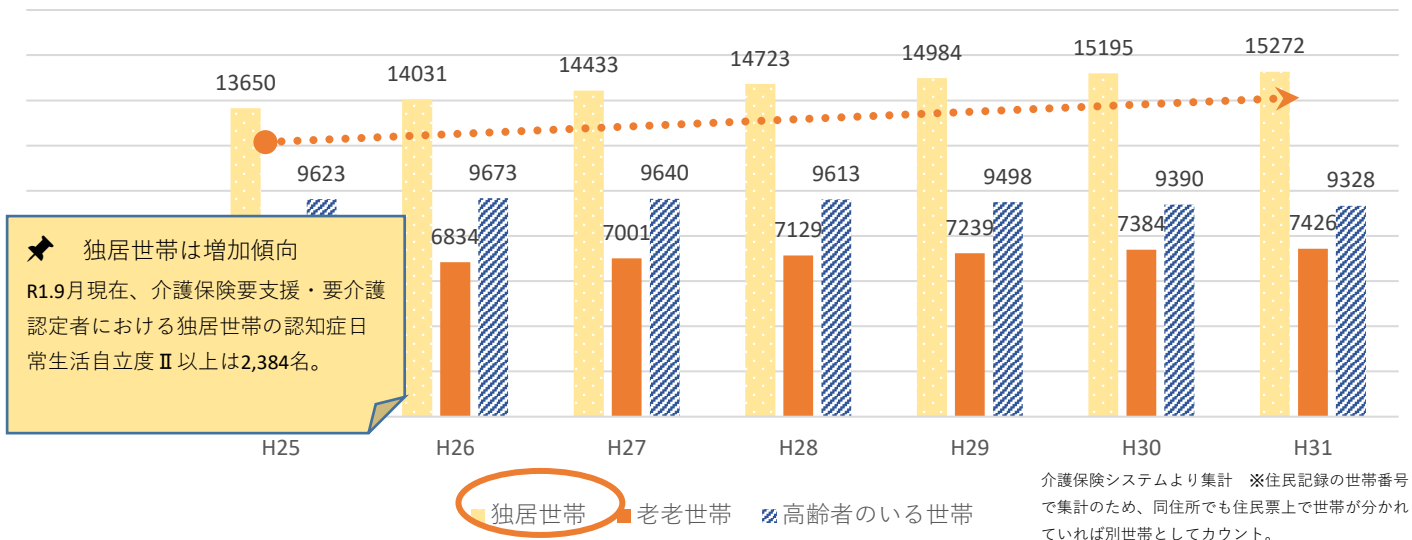


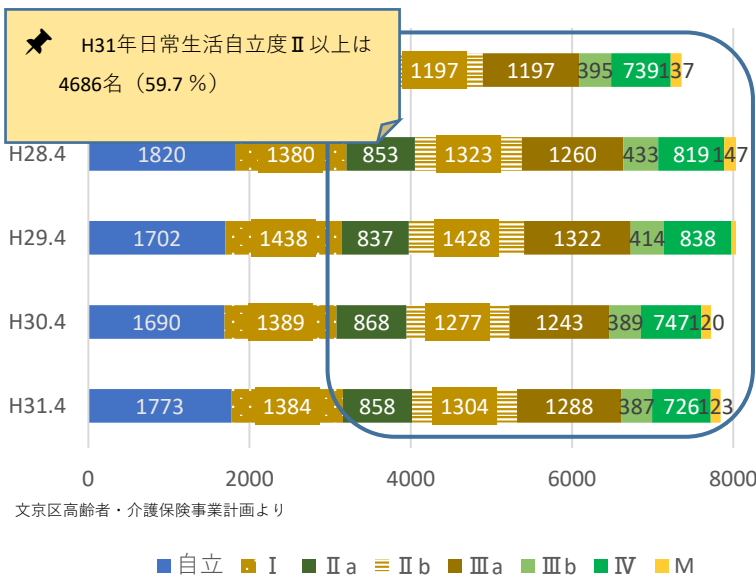
①文京区高齢者人口の推移



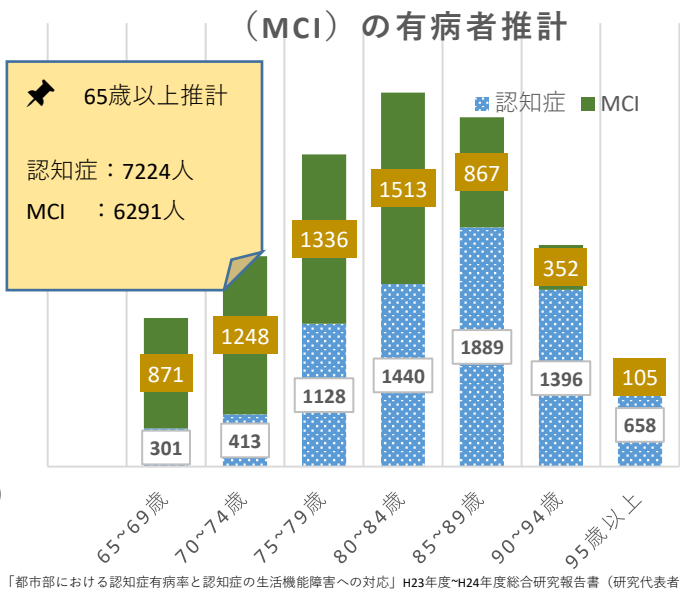
②文京区高齢者世帯の状況



③文京区要介護要支援認定者認知症日常生活自立度



④文京区認知症・軽度認知障害



## 認知症になっても人として尊重され、希望を持って自分らしく生きることができる文京区

- 誰もが認知症の正しい知識を持ち、どのような支援が受けられるか知っている文京区
- 適切なタイミングで適切な支援につながり、切れ目なく支援が提供される文京区
- 認知症であってもそうでなくても、「お互いさま」と当たり前を支えあう文京区
- 認知症の本人を支える家族の生活と人生に、充分配慮された支援のある文京区

### 普及・啓発の推進

#### ◇ 認知症講演会

	H26	H27	H28	H29	H30	R1.4~9
開催回数	6回	9回	8回	8回	5回	1回
参加者数	346	182	109	178	153	22
平均参加者数	57.7	20.2	13.6	22.3	30.6	22

#### ◇ 認PAKU~認知症に寄り添う機器展~

	H27	H28	H29	H30	R1.4~9
参加者数	343	396	380	493	569

#### ◇ 認知症サポーター養成講座

	H26	H27	H28	H29	H30	R1.4~9
開催回数	37回	62回	45回	54回	42回	26回
○ 区民	190	282	276	318	455	117
○ 受講 学校	213	406	573	785	360	157
者 企業	783	1,842	494	542	499	276
数 合計	1,186	2,530	1,343	1,645	1,314	550

#### ◇ 認知症サポーターステップアップ講座

	H26	H27	H28	H29	H30	R1.4~9
受講者数	48	15	6	43	53	10月実施

#### ◇ 認知症パンフレット等による啓発



#### ◇ 認知症講演会

##### 『参加者の声』

- 早期に対応する方法、受診の方法等、もっと勉強したい。
- 本人の思いをもっと知りたい。
- 病名からその人を見るのではなく、その人自身をみるのが大切であると感じた。

#### ◇ 認PAKU~認知症に寄り添う機器展~

##### 『参加者の声』

- 認知症の本人に役立つ機器をもっと充実させてほしい。
- 実際に見て触れて体験できるので楽しく学ぶことができた。
- 将来に備えられる。認知症予防法も知りたい。
- 認知機能チェックもあるとよい。

#### ◇ 認知症サポーターステップアップ講座

講義及び認知症の本人役と声かけ役に分かれてグループワークを行い、グループ毎のロールプレイを実施。

##### 『参加者の声』

- 認知症サポーターとは言え、オレンジリングを持っているだけだったが、積極的な働きかけをしたい。
- 認知症役と声かけ役を体験することで、本人の不安と声をかけることの難しさを痛感。
- 誰もが認知症になる可能性があるので、自分事として対応していきたい。
- 勤務する店舗に認知症と思われる方が来店される。対応の参考になればと思い受講した。早く支援につながってほしいと思う。

#### ◇ 周知

- 区報一面掲載、SNS掲載、CATVによる認知症施策番組制作

## 認知症早期診断・早期支援推進事業

◇ 認知症相談機能強化～H26年度から認知症支援コーディネーターを配置し個別支援や認知症施策を推進～

	H26	H27	H28	H29	H30	R1.4～9
認知症支援CO対応件数（延）	155	293	592	738	856	661
認知症相談件数（延）	1,793	2,785	3,317	3,920	3,873	1,971

◇ もの忘れ医療相談～H26年7月より認知症サポート医を区の嘱託医として高齢者あんしん相談センターに配置～

	H26	H27	H28	H29	H30	R1.4～9
来所相談件数	29	45	36	43	28	11
訪問相談（再掲）件数	7	16	13	12	2	2

▼ H26.7月～H30もの忘れ医療相談累積相談結果数

助言	要医療	方針確認	介護保険	その他
88	71	19	7	5

▼ もの忘れ医療相談”要医療”と判断された方のその後の状況

	H26	H27	H28	H29	H30	R1.4～9
受診他	2+	2+	10	12	4	5
状況	・嘱託医、他の専門医、介護保険申請など					
未受診	0	0	7	7	2	1
状況	・支援拒否のため、介入の時期を検討している ・かかりつけ医での受診継続 ・介護保険申請支援など					

### ◇ 認知症支援コーディネーターによる事業評価

#### 【課題】

- 相談件数の減少
- 相談事業の周知不足
- 地域包括支援センター内での事業理解度の差があり、事業利用につながらない
- 認知症の初期段階で相談につながるとよいが、相談につながるまでに至らないケースや、どこに相談に行ったらよいか分からないというケースもあるのではないかと。

#### 【次年度に向けた取組み】

- 訪問相談も対応可能である事を踏まえ、関係機関との各会議体や各事業を活用し積極的に事業周知を継続する。
- 認知症初期集中支援事業と連動させた事業展開を行いチームで関わる事によって、支援が必要な方への早期対応を実現させていく。
- 地域包括支援センター内でも本事業の理解を深め、相談後の支援経過も共有し、その後の経過で支援が必要になった時にも迅速に対応できる体制を整備する。
- 高齢者の方が集う場所等での周知活動や、気になるもの忘れに関するスクリーニングを実施し早期に相談につながる取組みを実施する。

## 認知症早期診断・早期支援推進事業

◇ 認知症初期集中支援推進事業～H29年10月より多職種連携による認知症支援の開始～

対象者	チーム員構成	チーム員訪問	チーム員会議	方針決定	最長6ヶ月支援	モニタリング
本人 家族 その他	認知症サポート医 認知症専門医 認知症支援CO 社会福祉士 認知症地域支援推進員	情報収集 アセスメント	支援方針検討 具体的な支援計画 役割分担 評価時期の設定 中間評価 疾患鑑別 対応方法の確認	社会資源調整、 医療介護連携、 アウトリーチ事 業の利用調整	必要に応じて通常 支援の継続 他の社会資源の利 用調整	医療や介護等の サービス利用状況 の確認

事業対象者数			
年次	H29.10~3	H30	R1.4~9
文京区	12	12	5
全国平均	13.4		

支援の 実際	開始時							
	初動日数	長谷川式平均	ザリト平均	ダスク平均	IIa以上	サービス利用有	認知症診たて有	同意書有
H29.10~3	12.6	16.3	15.8	46.8	9	2	5	6
H30	15.4	13.1	12.0	42.8	10	2	11	8
R1.4~9	11.6	12.7	18.7	54.3	4	1	5	5
全国平均	19.8	※疑い含む						

支援の 実際	介入			
	チーム員訪問1人あたり平均	①チーム員会議開催回数	②チーム員会議開催回数	東京都アウトリーチ
H29.10~3	2.5	19	5	1
H30	3.3	52	3	1
R1.4~9	2.0	11	2	0
全国平均	4.8			

支援の 実際	終了時							
	平均支援期間	認知症診たて有	ザリト平均	支援継続中	支援終了	医療	介護	その他
H29.10~3	111.7	11	12.0	6	6	2	2	3
H30	180.0	12	11.0	7	5	1	4	0
R1.4~9	177.3	5	なし	3	2	0	2	0
全国平均	108.8	※複数該当あり						

### 【ザリト介護負担感の結果について】

- 支援開始時の回答者が男性（6名）では、該当する高得点項目は「患者のそばにいと腹が立つことがある」であり、回答者が女性（10名）では、「患者の行動に困ってしまうことがある」となっていた。
- H29年10月～R元年9月までのザリト実施者の内、支援開始時の平均点は14.3点であったが、終了時の平均点は11.5点であった。

## 地域での日常生活支援の充実・家族支援の強化

### ◇ 認知症カフェ『ぶんにこ』～文京区認知症コミュニティ～

	H26	H27	H28	H29	H30	R1.4~9
開催回数	6	20	22	50	48	14
参加者数	128	257	319	1,115	908	176
平均参加者数	21.3	12.9	14.5	22.3	18.9	12.6

### ◇ 認知症家族交流会

	H26	H27	H28	H29	H30	R1.4~9
開催回数	12	8	8	8	8	4
参加者数	76	46	53	64	58	75
平均参加者数	6.3	5.8	6.6	8	7.3	18.8

### ◇ 認知症家族介護者教室

	H26	H27	H28	H29	H30	R1.4~9
開催回数	4	9	8	8	8	4
参加者数	60	156	202	133	186	108
平均参加者数	15.0	17.3	25.3	16.6	23.3	27.0

## 行方不明認知症高齢者ゼロ推進事業

### ◇ 靴用ステッカー及び衣類用アイロンシール配付状況（人）

配付数	H27	H28	H29	H30	R1.4~9
靴ステッカー	53	49	37	36	23
アイロンシール	46	41	30	34	19

### ◇ うちに帰ろう模擬訓練

	H27	H28	H29	H30	R1.4~9
参加者数	94	106	71	43	11月実施

#### 『参加者の声』

- ・日常生活でのつながりが重要
- ・昔ながらの隣近所との交流が大事
- ・幅広い年齢層に認知症の正しい理解が必要
- ・正しい知識を持って地域で優しく見守る大切さ
- ・相手を思いやる心、他人事ではなく自分事
- ・顔見知りを増やすことが大切
- ・1人暮らしの方の見守りを頻繁にしてほしい
- ・まずは自分から進んで挨拶する事から始めたい

### ◇ SOSメール事前登録事業及びSOSメール配信

	H27	H28	H29	H30	R1.4~9
事前登録者数	38	73	90	73	83
メール協力者数	434	549	603	640	665
メール配信回数	6	10	5	3	1
協力者による発見数	2	0	0	0	0

### ◇ GPS探索サービス

	H27	H28	H29	H30	R1.4~9
新規申請者数	1	3	4	1	0
利用者数	3	5	8	6	5

### ◇ 生活環境維持事業

	H27	H28	H29	H30	R1.4~9
利用者数	0	0	0	1	1

### ◇ 行方不明高齢者の現状～警察署防犯係生活安全課の方々に伺う～

- ・例) ある警察署管内平成30年度行方不明発生件数178件、内「認知症」と記載があるものは8件。
- ・行方不明者の届出ができる者は親族、後見人、身元引受人である施設長など。行方不明相談件数は不明。
- ・保護された方への対応として、丁寧な聞き取りを行い本人確認の手がかりを探す。データベースへの照合や他県警察への協力依頼、消防庁への問い合わせ有無等を実施。
- ・文京区民だった場合に、関わりの有無について地域包括支援センターに問い合わせることはある。
- ・ご家族と連絡を取り、安全にご自宅にお送りすることに尽力している。
- ・繰り返す行方不明高齢者への対応が課題。
- ・身元判明につながる靴用ステッカーや衣類用アイロンシール、GPS装着が普及されることを望む。

- 探し物がみつからないときに一緒に探してほしい
- 認知症の実感はない。しかし受け入れざるを得ない
- 私はのんきな性格。しかし、いつまで”病識”なくいられるか
- 無理はしていない、やりたいことをやっている。友人とも交流を持っているが支障を感じていない
- 先のことを心配しすぎても仕方ない。今後の事や、今ある社会資源を書き出してもみるが、私は私が本当は何を考えているがわからない。
- 今後状態が上向きになることはない。高齢者住宅には入院の設備がないし、終の棲家をどうしたらよいか
- 認知症なのかしら？という気持ちと、認知症であるという両方の気持ちがある
- 認知症という診断は受け入れ難かった。認知症は事実。しかし”認知症”と一括りにはされたくない。ともに年齢を重ねていくものの1人である。
- 認知症とは自分の中心となる人格が損傷されるという理解。いずれわからなくなるのかな？認知症という事実はいつも頭の隅にあるが、今はのんきに暮らしている。
- 全部が閉ざされることはない。その辺の草や小説が元気をくれることもある
- 仕事上のエラーが多いなという自覚はあったが誰にも悟られないように自分なりに相当な努力をしていた
- 診断を受けて、何が怖いかわからないが、とにかく”怖い”という感覚。
- 「言ったことを忘れる」という自覚があるから、「言う事が違う」という指摘をされるのはキツイ
- 相談に行った先々で情報提供の仕方に差がある。共通のサポートブックでその人の症状の進行に応じた生活しやすい情報とサービスを教えてほしい。
- 通常のデイサービスでは若年性認知症の方はなじめない。若年性対応のデイサービスがあるとよい。
- 買い物時に財布の中の小銭が判別できない。小銭を整理しやすい財布を買ってくれたら小銭で買い物ができるようになった。
- 券売機や自動改札機の操作が困難、駅やバス停が見つけれられない、買い物で多くの商品から選ぶのが困難
- 現金自動預け払い機の操作が困難
- 停車駅やバス停がわからなくなる。
- 認知症を初期・中期・後期と、病状の経過を分けてみても”初期”が一番辛かった。
- 相談に行くと、認知症本人の大変さを労ってくれるが家族の大変さを労ってくれるところはない。
- 行きたい場所に行くための移動支援
- 本人のスケジュール管理をしてくれるサービス

### 【認知症ご本人の「声」・ご家族の「声」からのニーズのまとめ】

- 探し物を一緒に探してほしい
- 認知症とともにある人も安心して生活できる終の棲家
- 認知症の状態に応じたサービスや利用できる資源をワンストップ窓口で教えてほしい
- 若年性対応のデイサービス
- 改札や券売機、現金自動預け払い機でのサポート、降車駅（バス停）を教えてほしい
- 買い物時の商品選びや支払いのサポート → 買い物サポーター
- 行きたい場所に行くための移動支援 → 移動支援ボランティア
- スケジュール管理

